



Hiroshima City University Language Center

広島市立大学語学センター
Newsletter No.44 (2012.10.23)



ワクワク海外！その前に

4月に国際学部新入生対象に行われたアンケートでは、在学中に正規または語学留学を希望する学生が全体の81%でした。近年、学生の渡航先は英語圏に留まらず、渡航目的も多様化しており、新興国にボランティアなどで渡航する学生も増えてきました。海外渡航は準備が大変な分、国の情勢の変化や感染症情報等を軽視し、無理して渡航するケースもありがちです。見聞きする外国体験はとても楽しそうですが、異国にいるという自覚を持ち、トラブルを糧にしつつも身の危険は未然に回避しましょう。

そこで、留学生支援専門員の小柳さんにアドバイスをいただきました。

目次：

知って危険を未然に回避、が基本

留学支援専門員 小柳昌生さん・・・1

ミニコラム：情報科学研究科 西正博先生・・・2
なぐるような装丁

名誉教授・芸術資料館前館長

大井健地先生・・・3

映画上映会報告&新企画・・・4

英語eラーニング社会人受講生に聞く・・・4

知って危険を未然に回避、が基本

教務学生室 留学生支援専門員 小柳昌生

その1. 海外渡航前のリスクを意識すること



「日本の常識は海外の非常識、日本の非常識は海外の常識」ともいえます。外国と日本では何もかもが異なると考えてください。

また日本にはあまりないと思いますが、同じ国や狭い地域に異なる宗教・文化慣習・食習慣等を持つ複数の民族が居住していることもあり非常に複雑です。日本と同じ生活感覚で外国に滞在すると大きな危険に遭遇することもあります。

ケース1. アジアのとある国では歩行者優先ではなく自動車優先。道を横断する時に車のライトで合図されると日本では、「どうぞお先に渡って下さい。」が多いですが、車のライトの合図が「危険！今、渡るな！！」ということもあります。ライトで合図された後に、笑顔で道を渡るとドライバーから怒られるだけでなく、危険な目に遭うこともありますよ。

ケース2. もちろん場所にもよりますが、日本では一般的に夜遅く女性が道を歩いてもそれほど危険ではないと思います。しかし、海外では日が沈むと特に女性は外出するべきではない地域も多くあります。また、昼と夜は同じ街路でも雰囲気随分異なる場所が多々あります。日本と同じ感覚で生活せずによく注意しましょう。

ケース4. 外国人排斥を掲げる政党の躍進

→外国人排斥を標榜する政党が政権与党となると、ビザ期間短縮や就労ビザ等の厳格化もあるかも。即退去ということは考えられないものの、滞在条件等において大きな変化が起こることもあります。

ケース5. 破壊活動（テロ活動）、反政府運動

→テロ活動等は予想できないものですが、人の多い繁華街になるべく近づかない事や反政府運動をしている団体等からの予告のある時には近づかない等の対応はできますよね。

ケース6. 政争や信教の異なる民族等による争い、内乱、抗議活動等

→外国では、生活習慣と宗教が非常に密接に関連している事が多いです。決まった礼拝の時間があつたり、休日である日曜日に商売が禁止されていたり、食べる物についても決まりがあることが多いです。例えば欧州ではブルカ禁止法や移民排斥運動というものもあり抗議運動等が行われています。

このような海外のニュースは直接関係ないように思われますが、1つ1つが海外在留時にあなたの生活と密接に関わり影響を及ぼします。例えば街中で抗議活動そのものに巻き込まれる可能性も大いにあります。出国前、また海外在留中もニュースに目を通し、外務省海外安全ホームページ等から現地の状況を常に確認しましょう。

また、現地の政治、社会情勢にも大きく目を向けましょう。

■ 外交、政治、社会、文化的要因、例えば・・・

ケース3. 日中・日韓関係、南北（韓国及び北朝鮮）関係

→最近では近隣国との領土問題ですね。留学生の中には現地でアルバイトをしている時に「領土問題についてどう思うか？」と買い物客に延々と聞かれた学生もいます。

その2. 海外旅行保険には必ず加入しよう

日本では事故に遭うとまず救急車で搬送されると思いますが、外国では公的に救急車がなく私立の大きい有名病院しか救急車を持っていない事もあります。危機管理説明会で聞いた話ですが、一説には公的に救急車を運営しているのは日本・韓国・台湾程度だとか。外国では怪我をした人の持っている保険により搬送先病院や治療内容が決められることもあります。

(P2 へ続く→)

「広がる研究活動—英語を通して」



キルナの観測系の前にて

私にとって最も身近な外国語は英語です。多くの方々と同じように中学生の時から始め、高校受験、大学受験など必要に迫られての勉強がほとんどでした。特に大学院生の時に初めて国際会議での発表の機会をいただいた際に、重いプレッシャーの中で英語学習に取り組みました。原稿も発表も英語ですので、これまでにない頻度で辞書を引き、発音記号まで意識しながら四苦八苦したことを覚えています。しかしながら、この経験が自信につながり、研究職の道を志すようになりました。これまで、国際会議ではアメリカやヨーロッパ、アジアの様々な国に行かせていただき、自分の視野を大きく広げることができました。また2011年からは、

スウェーデンの北極圏の町キルナにおいて、我々の研究室の観測系を設置し、オーロラの電波観測やライブ画像配信などを始めており、仕事の幅も広がっているところです。学生時代に国際会議へ出席させてもらい、生の英語に触れる機会をもらえたことを改めて感謝します。

(→ P1 から続く)

例えば、米国で盲腸の手術をするといくらかかるかご存知ですか。州や病院にもよりますが、なんと“2泊3日の入院で200万円”というデータもあります。安全を買うと思い、海外に出かける時には保険に必ず加入しましょう！

ケース7. 保険にはいろいろな項目がありますが、その中の治療費用、救援費用という項目は重要です。もしあなたが山深い村で行われる体験型スタディツアー参加中に毒虫に噛まれたとします。現地から一刻を争いヘリコプターで病院まで搬送しなければなりません。保険に加入していないとその治療・救援費用(救援者費用、移送費用等)を請求されることもあると思います。またあなたが、外国で歩道を歩いていたにも関わらず車に追突される事故にあったとします。家族の介護が必要となるかもしれません。救援費用は介護人の旅費や滞在費等までも適用されます。それぞれの渡航目的に応じ適切な保険に加入しましょう。
(※あくまで事例です。保険内容や保険適用範囲は保険会社のプランや特約事項等により異なります。必ず確認をしてください。)

その3. 信頼のおける留学斡旋業者に依頼しよう

近年では個人手配の旅行や体験型ツアーも増えていますが、その企業、団体は信頼できる団体ですか。何か事件事故が起きた時はどこまで対応し、責任を負ってもらえるのかご存知ですか。先月にはご存知のとおりルーマニアで悲しい事件も起きました。

また、旅行会社の広告を見ることもあると思いますが、旅行形態が異なるのは知っていますか。大きくは募集型企画旅行、受注型企画旅行、手配旅行と分かれます。この中の手配旅行については、旅行会社が旅行に行きたい人に代わり航空券等を手配しただけの旅行となり、旅行中の事故や経路変更等についての責任は負わないという事になっています。渡航前には留学を

斡旋する企業、団体や旅行形態についても確認してください。留学斡旋業者を審査・認証している団体もあります。ぜひ参考してみてください。

■ 外務省海外安全ホームページ(国レベルの大きな事象から、どの地区でスリが増えているという細かな情報も掲載されています)

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>



■ 渡航地の在外公館ウェブサイト(滞在先の日本大使館や総領事館で、その地域のニュース等が掲載されています)

http://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/zaigai/list/n_ame/usa.html

■ JAOS 海外留学協議会

<http://www.jaos.or.jp/index.html>

社内装丁 (2)

なぐるような装丁

大井健地 (名誉教授・芸術資料館前館長)

木戸である。数百年は経ているのだろう、朽ちかけた個所もある古い木戸の写真。木に彫り込んだ紋章めいた装飾図柄と打ち込んだ鉄釘の頭がリズムをなし古拙で頑丈な味わいをかもしている。

『文学演技』の装丁をたのまれたけれど装丁材料は何もなかったのも、著者の杉本秀太郎先生に使えるような絵や写真はありませんかと依頼した。結果、杉本先生提供の、御本人撮影 (1968 年、春) の写真を使用した。

イタリア、ヴェローナのどこかで撮られた木戸のカラー写真をカバー表 (図左) に、本体表紙 (図右) は木戸の木肌の、明暗を強調したモノクロ複写図版を用いた。



杉本秀太郎『文学演技』筑摩書房 1977 年。カバー表と表紙

『文学演技』筑摩 77 年 (のち文庫化)、は幾度ものリピート読みに褪せない、充実した中味の活力を保っている。たとえば冒頭のボードレール論、今読んでようやく理解が進んだと合点させてくれる。

世にまれな文章家ではある。が初期著作の本書では文芸の学とは何かという問いまたは主張と距離近く、学問の人、研究の人でもある、骨付きの文が供されている (参照: フィレンツェのビステッカ)。

僕が画家ピサネロに格別の関心を持つことになったのはこの本のせいだし、また、オリエンタリストの画家にして文筆家フロマンタンの名を強く意識させられたのもこの本のおかげである。フロマンタンの「昔日の巨匠たち」はオランダ絵画論の名著である。

ヨーロッパ絵画に竹は描かれたことがない。なぜか。ヨーロッパに竹は生えないから。という簡明な真理を枕に、竹のつやが考察される。論は竹の節や内部の空洞に光をあてる。おしまい、は、「竹を素材とせず竹でありつづけることをたくらんだ」のが、紙と漆の一閑張りである。そういう指摘に到るまで軽く清く、なめらかに進行する。風土と生活伝統に実証の根拠を得た鮮やかな日本の心性論。つやにおいて竹と漆は通じあうが、しかしそれらの魅惑の違いはどうか。論者は最後に念入りに、両者の差異を

文章化する。告白しますが僕が杉本秀太郎文業に以後不変の讃嘆と尊重を惜しまないそのはじまりはこの個所です。

「竹のつやが、指の先で突つきもしたくなるような硬いなめらかさをおびているのに対して、漆のつやには、人差指と中指の腹でさわりたいくなるような柔らかなめらかさがある」(「竹」、『文学演技』99 頁)。

モノ (観念より客観的物象、また実物) を見ることの大切さはいくまでもないのだが、ここでは視覚から触覚の比喩に転じて、つやの違いを高性能に明瞭にする。繊細な感触の息使いを伝える名文章だと僕は思う。

ついで装丁装画に留意して杉本本の数冊を見返しておく。

『洛中生息』みすず 76 年。銀地白抜き扉にあしらわれた

「祇園囃子の譜帖」は一見の価値。カタカナ符牒が愉快。クレーみたい。カバー装画 (四条派村瀬玉田「棒振り」) は土産品の菓子箱の包装紙みたいで僕はかわない。収録の著者が撮した洛中写真 (「町家の門口」「雪の朝」など)、佳趣あり。

『西窓のあかり』筑摩 83 年。カバーは名品「ケルズの書」(ダブリン大学トリニティカレッジ図書館蔵)の「XPI 頁」。渦巻や組紐の文様が熱く、ゆかしい。

『絵草子』創樹社 86 年。浅井忠「ひょうたんなま」(『大津絵皿下絵集』より)。発汗しそうな力作装丁。

『パリの電球』岩波 90 年。安野光雅装画のカバーは軽すぎる。それを解き捨てた、金箔押し布装表紙は良し。

さて、装丁者は第一に読者に向かって仕事をしますが一方で当然、著者の反応を気にします。著者は帯文 (これは編集者の仕事) と装丁に刮目してまかまえています。

出来あがったばかりの『文学演技』を見られて、杉本先生が装丁者に最初に発したことは、こうでした。

「檜の棒でなぐられたようです。」

知のトライアスロン
 ~~~~~

## 2012 年度前期 映画上映会報告 & 後期 新企画の発表

### ☆映画上映会ご報告 — テーマは “門”

6月25日(月)～6月29日(金)の1週間、毎年恒例の映画上映会を行いました。昨年に引き続き、国際学部講義「多文化共生入門」とのコラボレーションで、佐藤(深)先生とヴェール先生にご協力をいただき、無事に上映会を終えることができました。今回は “門” をテーマとして下記の映画を上映しました。

■上映映画：「羅生門」「審判」「愛より強く」「恋愛小説家」「千と千尋の神隠し」「小説家を見つけたら」

今回、上記の映画を見逃した人は、語学センターや図書館で視聴することができます。あなたの新たな “門” を開いてみませんか？

### ☆新企画では iPad が登場！

今年度後期は、従来の教室やホールでの映画上映会以外に、iPad で英語学習用のアプリケーションを使用した映画視聴を新たに企画中！ 知のトライアスロンではまず10月から12月末まで図書館で5名の学生モニターを募集し、iPad の貸出を行います。図書館でのモニターが終了後、語学センターでも一般の学生に学内限定利用で iPad の貸出を始める予定です。貸出については掲示やHPでお知らせしますので、楽しみにしてください。

英語学習用アプリケーションでは、DVD やブルーレイにはない英語字幕・日本語字幕の同時表示機能があり、各シーンで自分が好きな字幕に切り替えながらの視聴が簡単にできます。また、好きなフレーズをお気に入り登録して、後から復習もできます。分からない単語は字幕の単語をタッチするだけで意味が表示されるという、英語学習にはとてもありがたい機能もあります。この秋は、楽しみながら英語学習を行える贅沢な時間を過ごしてみましょう！



iPad で外国語学習

## 一般市民・事務局職員対象 夏休み英語 e ラーニング

語学センターでは、夏季休暇中(8月8日～9月28日)の約2か月間、以下の2つの講座が実施されました。

● 市大英語 e ラーニング講座： 広島市民対象。「リーディング・リスニング・文法」「スピーキング」「ライティング」「通訳ガイド養成」「小学校英語教員養成」の5つのプログラムの中から選択したものを受講する。受講者13名。

● 事務局職員英語研修： 事務局職員対象。「リーディング・リスニング・文法」プログラムのみ。受講者3名。

暑い中、受講者の皆さんは毎日のように熱心にプログラムに取り組んでいらっしゃいました。そのお一人の桑田和子さん(市大英語 e ラーニング講座、リーディング・リスニング・文法プログラム受講)にプログラムを受講しての感想などをお聞きました。



桑田和子さん

Q：受講のきっかけは

A：友人の紹介。英語力向上はもちろんのこと、講座の前後にある TOEIC 受験も魅力的でした。

Q：実際に受講してみて

A：短期集中のプログラムなので、集中して取り組むことができました。また、システムがとてもよく、学習が効率的にできました。特に文法は、解説が簡潔でとても分かりやすかったです。リーディングは、文量が多く大変でしたが、内容が興味深く楽しみながらできました。

Q：これからの語学学習の目標は

A：海外の友達と身近な社会問題についても意見交換できるようになりたいと思っています。

### ☆ 視察・オープンキャンパス等報告 ☆

- 5月31日 高等学校進路指導担当教員対象説明会 (15名)
- 6月6日 広島市立安西中学校3年生・保護者 (168名)
- 6月7日 広島県瀬戸内高等学校2~3年生 (11名)
- 6月12日 山口県立光高等学校2年生 (43名)
- 6月24日 プレ・オープンキャンパス (約80名)
- 7月3日 広島県立福山葦陽高等学校PTA (34名)
- 7月4日 広島県立五日市高等学校PTA (46名)
- 7月6日 広島県立安芸府中高等学校2年生 (35名)
- 7月9日 広島県立加計高等学校1~2年生 (37名)
- 7月10日 広島市立安佐北高等学校2~3年生 (17名)
- 8月5日 オープンキャンパス (約168名)
- 9月5日 広島県立可部高等学校 (40名)
- 9月14日 安芸高田市立吉田中学校3年生 (111名)
- 9月28日 広島県立千代田高等学校PTA (14名)

|        |                                                                                                                         |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 発行日    | 2012年10月23日                                                                                                             |
| 発行     | 広島市立大学語学センター<br>〒731-3194<br>広島市安佐南区大塚東3-4-1                                                                            |
| 編集     | 堀本真由美<br>伊達美和子(内線：6410)                                                                                                 |
| Phone  | (082)830-1509                                                                                                           |
| Fax    | (082)830-1794                                                                                                           |
| E-mail | lang@intl.hiroshima-cu.ac.jp                                                                                            |
| ホームページ | <a href="http://call1.lang.hiroshima-cu.ac.jp/lang/index.html">http://call1.lang.hiroshima-cu.ac.jp/lang/index.html</a> |